2024 年 7 月 22 日

がん患者さん等の症状緩和（吐き気）に対する薬剤の適応外使用について

【緩和ケアについて】

緩和ケアにおいては、症状緩和のために効果の期待できる様々な医薬品を使用しますが、これらの使用方法の一部は、添付文書で定められておらず、適応外使用の扱いとなります。適応外使用ではありますが、ガイドライン（WHO や日本緩和医療学会）に記載されており、緩和領域において、その使用が広く推奨されている方法です。

そのため、適応外使用である旨を、各患者さんにご説明して同意をいただく代わりに、病院ホームページにて情報を公開することとしております。

【使用する医薬品について】

吐き気は嘔吐しそうな不快感であり、がん患者さんでは、消化管の障害だけでなく、例えば脳転移、骨転移による電解質の異常、がん治療などの薬剤、気持ちの辛さなど、さまざまな原因が組み合わさって吐き気が引き起こされていることがしばしばみられます。通常の吐き気止めを使用しても症状の改善が困難な場合には、適応外使用ではありますが、添付文書上では吐き気の効能効果をもっていない薬剤の中からも選択し、使用することで吐き気の軽減が期待できます。

・吐き気に対して適応外使用する薬剤

分類	薬剤名	投与方法	代表的な副作用
抗精神病薬	ハロペリドール	経口、注射	傾眠、不眠、不安、頭痛、めまい、手足の震え、血圧低下など ※オランザピンとクエチアピンは糖尿病の方へは使用禁忌です
	オランザピン	経口	
	クエチアピン	経口	
抗ヒスタミン薬	ヒドロキシジン	注射	眠気、めまい、倦怠感、口渇、頭痛、発疹など
	ジフェンヒドラミン	経口	
セロトニン 5HT3 受容体拮抗薬	オンダンセトロン	経口、注射	頭痛、めまい、便秘、動悸、倦怠感など
	グラニセトロン	経口、注射	
コルチコステロイド	デキサメタゾン	経口、注射	胃痛、不眠、むくみ、満月様顔貌、倦怠感、血糖値上昇、感染症など
	ベタメタゾン	経口、注射	

【使用方法】

患者さんの状態（内服が可能かどうかなど）により、適切な薬剤の種類、その投与経路など検討しご本人（状況によりご家族など）の同意を確認した上で使用します。使用にあたっては、各薬剤の医薬品添付文書に則り、副作用発現に十分注意を払います。

【治療費について】

これらの治療にかかる費用は通常の保険診療と同じです。これらの治療による副作用が生じた場合も保険診療になります。ただし、適応外使用であることから、国の医薬品副作用被害救済制度の対象にはならない場合がありますのでご了承ください。

本医薬品の使用は、患者さんご自身の自由意思に基づくものです。希望されない場合はお申し出下さい。そのことによる不利益を被ることはありません。なお、この治療を行うことは、当院の未承認新規医薬品等評価室にて承認されています。ご質問がありましたら、いつでも遠慮なく、担当の医師、看護師または薬剤師までお尋ねください。

杏林大学医学部付属病院
医療安全管理部　未承認医薬品等評価室
代表　0422-47-5511